



イラストでたどる石州街道も今回で10回目となった。以前書いたように、石州街道のうち小郡から山口までは2回、篠目から山口までは3回、篠目から長門峡までは1回ほど実際に歩いている。逆に言うと、距離にして半分程度(約25km)を残しているのである。昨年12月にそのうちの長門峡～徳佐までのウォークを予定していたのだが、天候不良で中止となった。その為、その後のウォークは少しも進捗していない。そのくせ余り慌てていないのは、篠目までの18回分のイラストはすでに完成させているからである。しかし、全体では萩往還同様に36回を予定しているので、あと18カ所を選んで描かねばならない。今年早いうちに長門峡～徳佐までを済ませ、もう1回で津和野手前の野坂峠まで歩くつもりである。

ところで、石州街道経験は上記6回に過ぎないから萩往還のガイド経験とは比較にならないほど少ない。そして、当然街道そのものに関する知識も回数に比例して微々たるものである。一応、萩往還同様に、ガイド時に使用する説明カードは、石州街道概論14、小郡～山口63、山口～篠目37の合計114枚作成済みである。しかし、やはり書物や資料からの知識だけでなく、実際にガイドして身につく知識も沢山あるから、とにかく経験しなければならない。作成したカードにしてもガイド体験によって取捨選択と追記が不可欠だが、残念ながら、ガイドとして石州街道を歩いたことはまだ一度もないのである。そのため、あと8回分の持ちネタを使い切る前にもとにかく早めに残された長門峡～野坂峠までを体験したいのである。そんなわけで、萩往還の場合、ほとんど何も見ずに書けた解説記事が、石州街道の場合は資料との首っ引きで書いている。実はくどくどと萩往還に比べて経験がないことを書き連ねているのは、サンデー山口に書いた記事以上の知識がないから、書きたくても書けないのである。それに加えて、今回の記事に関しては、山口県立図書館の司書の方に大変お世話になった。書くネタがないので、龍王社について何か適当な書物がないか、電話で相談したのである。原稿の締め切りが迫っていて、借りてきた書籍に十分な情報があるとばかり思い込んでいたのだが、いざ書こうと本を読んでも大した記事がない。これはまずい。とにかく急がねば、ということで、大変失礼ながら電話でレファレンスに問合せしたところ、対応してもらったのがK司書だった。県立図書館の司書ともなると流石である。後ほど電話させていただきます、と言われて、ほどなくして帰ってきた回答には、的確なアドバイスとともにネット上の情報まで含んでいた。感謝!(2023.1.24記)

